

平成30年度事業報告書

(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

学校法人 上宮学園

I.法人の概要

1.建学の精神

本学園の建学の精神は法然上人の理想を実現することであり、したがってその指導原理は上人の仏教精神にあることは言を俟たない。学園に関係するものは当然その本源を尋ねてひとえに法然上人に依るべきで、本学園が法然上人を学校祖と仰ぐゆえんである。学園の歴史はわずか120年であるが、その120年に至るまでの歴史は遙かに長いのである。

法然上人の理想とするところは校歌『月影』にこめられている。

「月影の いたらぬ里は なけれども 眺むる人の 心にぞ 澄む」

これは校祖法然上人の御作で、仏様の慈愛について述べておられるものである。仏の慈愛はさながら月光に似て、人の世のすみずみまでを照らす。しかしながら、月明かりを良いものだと感じ取ることのできる人にだけ月光の良さがわかるように、ああこれが仏の慈愛なのだ、と感じ取ることのできる人にだけ、慈悲の心は通じる。仏恩とはそのようなもの、と説いておられる。本学園ではこの月影の歌を校歌にしており、卒業生は校名一つないこの歌を校歌としている母校に、限りない母校愛と誇りを感じ巢立つのである。

この精神を具現化するために定められたものが、校訓であり、学順である。

校訓「正思明行」～正しく考え、明るく行動する～

何気ない言葉のようですが、邪悪なことを考えていて、立派なことがやれるわけがない。小さなことにくよくよして、大事業が達成できるわけがない。要は心のもちかた。他者が見て、この人にはついて行けると思われるような人物は、いつも考えていることが清く正しく、その言動もおのずと清明で、正々堂々としているものです。生徒諸君にそういう立派な人物になれという校祖の思いが、この四文字に込められている。

また上宮には昔から「学順」と呼ぶ教訓が存在する。

「一に掃除、二に勤行、三に学問」。この「掃除」はしばしば誤解されるのであるが、仏道ではもつと哲学的な意味をもち、俗世を浄土のごとく掃き清め、もって俗念を断つ。『往生要集』にもある、穢土を厭い浄土を求める、その心がけが第一で、つぎに己が身の力の限り努力して勉学に勤しめば、学問は自ずから身に備わり、その真価を発揮するという意味です。

以上のことはいずれも仏の叡智に根ざすものである。現代のようなコンピュータ万能の時代でも、いや、むしろ、このようなブラック・ボックスの伴うテクノロジーが人智を凌駕する時代に生きるからこそ、この叡智は大事なのである。いたずらに俗世の成功を求めず、人間ほんらいの生き方と

「知の真価」を求める。上宮学園では法然上人のこの人道と仏の慈愛を多くの若者に分け与えて、120年の伝統を経てもなお脈々と受け継がれている。

2.法人の沿革

上宮高等学校は、明治23年（1890）浄土宗を母胎として創立された。以来120年以上の長い歴史を刻み、幾多の卒業生を送り出してきた。大阪で最も古い学校のひとつとして、永い歴史の中で培われてきた伝統を大切に、きめの細かい教育を推進している。

- 明治23年（1890年）大阪大教会支校を生玉大宝寺に開く
- 明治34年（1901年）学制変更により修業年限4年を5年に変更
- 明治39年（1906年）中学校と同等の認定
- 明治45年（1912年）財団法人上宮中学校設立許可
- 昭和4年（1929年）鉄筋本館竣工
- 昭和10年（1935年）定員1250名認可 鉄筋新校舎の建設案成る
- 昭和14年（1939年）新校舎（現2・3・4号館）竣工
- 昭和22年（1947年）新制上宮中学校発足
- 昭和23年（1948年）新制上宮高等学校発足
- 昭和26年（1951年）学校法人上宮学園へ組織変更認可
- 昭和36年（1961年）校祖750年遠忌式
- 昭和38年（1963年）高等学校志願者5259名に達す 5号館竣工
- 昭和42年（1967年）中学校の募集停止 太子町鉄骨校舎着工
- 昭和44年（1969年）太子町校舎高1授業開始
- 昭和49年（1974年）高2 2コース制実施
- 昭和54年（1979年）太子町鉄筋校舎ならびに合宿所竣工式
- 昭和56年（1981年）総合体育館竣工式 90周年記念式
- 昭和59年（1984年）上宮高等学校6号館竣工
- 昭和60年（1985年）上宮中学校復活開校（於、太子町）
上宮中学校体育館竣工、太子町学舎体育館竣工
- 昭和63年（1988年）上宮高等学校太子町学舎開設
- 平成1年（1989年）上宮高等学校太子町学舎校舎竣工
- 平成2年（1990年）創立100周年記念式典
- 平成3年（1991年）上宮高等学校太子町学舎が上宮太子高等学校として独立
- 平成5年（1993年）上宮中学校が上宮太子中学校へ変更
上宮中学校開校（於、天王寺）
上宮高等学校硬式野球部選抜野球大会初優勝
- 平成22年（2010年）上宮学園創立120周年記念式典
- 平成23年（2011年）校祖800年大遠忌
上宮中学校・高等学校、上宮太子中学校男女共学化
- 平成24年（2012年）上宮太子高等学校男女共学化
- 平成26年（2014年）上宮高等学校3年 平岡卓
冬季オリンピックスノーボードハーフパイプ銅メダル受賞式典
- 平成30年（2018年）上宮中学校と上宮太子中学校が合併し、上宮学園中学校へ校名変更

3. 設置学校（所在地・コース等）

i 上宮高等学校 〒543-0037 大阪市天王寺区上之宮町3番16号
全日制 普通科 パワーコース・英数コース・プレップコース

ii 上宮太子高等学校 〒583-0995 大阪府南河内郡太子町太子1053
全日制 普通科 3カ年特進コース・3カ年総合進学コース

iii 上宮学園中学校 〒543-0037 大阪市天王寺区上之宮町3番16号
特進コース・Gコース

iv 上宮太子中学校 〒583-0995 大阪府南河内郡太子町太子1053
特進選抜コース

4. 校地・校舎面積

名 称	校地面積 m ²	校舎面積 m ²
上宮学園中学校・上宮高等学校	47,934	22,906
上宮太子中学校・高等学校	30,338	12,436
合 計	78,272	35,342

5. 入学定員

名 称	学則定員（各3学年合計）
上宮高等学校	2,520
上宮太子高等学校	840
上宮学園中学校	480
上宮太子中学校	240
合 計	4,080

6. 生徒数・学級数(平成30年5月1日現在)

名 称	学年	生徒数	学級数
上宮高等学校	1年	663	17
	2年	668	19
	3年	667	17
上宮太子高等学校	1年	202	6
	2年	217	6
	3年	182	5
上宮学園中学校	1年	92	3
	2年	77	3
	3年	84	3
上宮太子中学校	1年	0	0
	2年	29	1
	3年	24	1
合計		2,905	80

7. 役員・評議員 平成30年4月1日現在

i 役員（定員 理事：7名、監事：2名）

理事7名（うち、理事長1名、理事6名）監事2名

理事長 田中裕史

理事 山縣真平（上宮中学校高等学校長）

寺澤久弥（上宮太子中学校高等学校長）

甲斐龍二（上宮学園法人事務局長）

井桁雄弘（評議員互選）

鶴野重雄（浄土宗・知恩院責任役員）

西浦道哉（浄土宗僧侶）

監 事 小笹憲雄・毛利虎之助

ii 評議員（定員15名）

評議員15名（うち、理事兼任7名）

神田眞晃（卒業生） 川中光教（浄土宗僧侶）

水谷川源昇（学識経験者） 横倉廉幸（卒業生） 殿井鉄夫（学識経験者）

松井保（法人職員） 原田和成（法人職員） 佐々木裕司(学識経験者)

8. 教職員

教職員数	教諭	常勤講師	非常勤講師	事務職員	合計
上宮高等学校	86	3	59	22	170
上宮学園中学校	19	2	9	2	32
上宮太子高等学校	37	2	21	8	68
上宮太子中学校	6	0	5	1	12
合計	148	7	94	33	282

II.事業の概要

平成 28 年 7 月より田中裕史理事長・学園長が就任し、学園の発展向上のために、安井良道前理事長・学園長の意思を継承し、「三本の柱」を掲げる。

一は教育力の向上。本学園の建学の精神である「正思明行」を礎として学力だけでなく、幅広い知識と教養をもち、自ら努力できる人物を育成し、またさらに、共生の精神と自立できる力を養い、世界的に活躍できる人物を育成する。教授法の改善を推進し、より質の高い教育を実践、学校満足度の向上をはかる。

二は健全な財政の構築。創立 120 有余年の歴史と伝統を基盤として、さらなる社会的信頼獲得のための運営をすすめ、確固たる学園ブランドを確立する。令和 2 年、創立 130 周年を迎えるにあたり、学園の整備計画の一つとして、上宮中学校・高等学校新校舎建設を決定、基本設計の段階に至る。そのための整備費等の財務計画を策定し、強固な財政基盤を確立する。

三は民主的な運営。競争力を持った教育環境の整備と社会変化に対応できる組織力の確立を目指す。理事長・校長の指導の下、教職員の意見を取り入れながら、各部署が連携して学校運営に取り組む。また、保護者会・同窓会・教育後援会等と学園とが連携し、社会に貢献できる事業を企画し推進する。

以上、基本精神「三本の柱」を中心に、学園の維持・発展のための事業運営に今後に向けても邁進する次第である。

1. 法人

平成 30 年度 第 1 回理事・評議員会

日時 平成 30 年 5 月 30 日 (水)

会場 上宮学園中学校・上宮高等学校 北応接室

議案第 1 号 平成 29 年度事業報告について

議案第 2 号 平成 29 年度決算 (案) について

議案第 3 号 平成 30 年度予算 (案) について

議案第 4 号 上宮学園中学校学則(カリキュラム)変更について

議案第 5 号 その他について

平成 30 年度 第 2 回理事会

日時 平成 30 年 7 月 30 日 (月)

会場 上宮学園法人理事室

議案第 1 号 理事補充について

平成 30 年度 第 3 回理事会・第 2 回評議員会

日時 平成 30 年 12 月 14 日（金）

会場 上宮学園中学校・上宮高等学校 北応接室

議案第 1 号 平成 30 年度第 1 回補正予算案について

議案第 2 号 平成 30 年度中間報告(財務面・教務面)について

議案第 3 号 上宮学園の一部所有地に関する名義変更について

平成 30 年度 第 4 回理事会・第 3 回評議員会

日時 平成 31 年 3 月 26 日（火）

会場 上宮学園中学校・上宮高等学校 北応接室

議案第 1 号 平成 31 年度事業計画について

議案第 2 号 平成 31 年度予算原案について

議案第 3 号 学則の変更について(カリキュラムの変更による)

議案第 4 号 上宮学園中学校・上宮高等学校

上宮太子中学校・上宮太子高等学校の近況報告について

議案第 5 号 その他について

2.上宮高等学校

i 執行部関係【上宮学園中学共】（平成 30 年度）

校長	山縣真平	中学教務部長	上田達哉
副校長	殿井鉄夫	生活指導部長	福井 篤
高校教頭	栗栖有文	進路指導部長	畑中 広
中学教頭	末金和夫	入試対策部長	北村吉隆
高校教務部長	西岡信教		

ii 広報関係.

①学校説明会

入学希望者を対象に 9 月から 12 月にかけて、月に一度、計 4 回の説明会を実施している。また今年度は、文化祭の時に個別相談ブースを設置。参加者数は、昨年度は前年比約マイナス 100 組となっている。今後以下の点について考えていかなければならない。

○説明会の時間設定

土曜日の午後 3 時から 5 時という時間をできれば午後 2 時から 4 時に実施したい。11 月、12 月の説明会（上宮高等学校を受験する可能性が高い参加者が多い説明会）では終了すると、外が暗くなってしまっていて、印象があまりよくないのではないかと思われる。また説明内容も 1 時間が妥当である。他校の説明会と比べれば明らかに長い。

○今後について

- ・生徒が前面に出るような説明会も考えていってもいいのではないだろうか。
- ・参加者数が非常に多いので難しいと思われるが、学校見学が出来れば良いと思う。
- ・保護者・卒業生の起用を考えてみるのも良いのではないか。

②塾対象説明会

ここ数年はシェラトン都ホテル大阪で7月第2金曜日に一度だけ実施している。今年度は、実際に塾の先生方が、進路指導を始める9月（夏休み後の五ツ木模試・駸々堂模試の結果が出る）に変更した。懇親会は実施せず、説明会終了後に個別相談コーナーを設けて対応している。説明会の時間が少し長いという声があり、調整に苦慮している。個別相談コーナーを利用されている塾の先生方が少ないので、個別相談コーナーのあり方も再考かと考える。次年度以降もこの時期が良いのではないかと思われる。新校舎が完成すれば、学校での説明会も可能かと思われる。保護者・卒業生の起用を考えてみるのも良いのではないか。

③私学展

毎年多数の来場者が見込まれる中で、上宮学園中学校・高等学校のブースを訪れる人数は共学になって増加の一途をたどっている（特に高等学校）。別会場にて上宮の概略を聞いてからブースでの説明を聞く方もおられれば、最初にブースに来て一通りの話を聞く方もおられるので、大変混乱した。今年度は、8月19日・20日だったので、管理職・各分掌部長の応援があり少しは混乱も解消したかと思う。次年度以降は、サポートという先生方がおられるのでより混乱も解消されると思われる。

④特筆すべき点

高校入試も決して楽観視できない状況である。共学とアクセスと制服とに助けられて集まっているといっても過言ではない。専願者の減少傾向（特にパワー、英数）、大阪府の就学支援が今後どうなるかわからないことを考え、広報のあり方を再度、検討しなければならない。今年度は、中学入試に重点を置き管理職との本部への挨拶回りを実施したが、次年度以降高校入試関連の本部にも、管理職との挨拶回りを実施したい。

⑤入試関係

入試結果については

専願受験者 293名（パワー24名、英数66名、プレップ203名）

合格者 290名（パワー9名、英数42名、プレップ239名）

前年 287名（パワー43名、英数54名、プレップ190名）

合格者 280名（パワー10名、英数38名、プレップ232名）

とほぼ変わらない状況である。

併願受験者 1862名（パワー828名、英数582名、プレップ452名）

合格者 1754 名（パワー313 名，英数 649 名，プレップ 792 名）

前年 2167 名（パワー915 名，英数 691 名，プレップ 561 名）

合格者 2095 名（パワー245 名，英数 697 名，プレップ 1153 名）

と併願者数が約 300 名減少している。これも新校舎の収容人数と，今後の生徒数の減少を考
えてプレップ・英数の併願のラインを実力テストで 10 点上げた。その結果が併願者の減少に
つながっているのではないかと考える。また，併願者の戻り率が約 16 パーセントと非常に高
かった。新校舎への収容人員の関係や，今後高校入試においても現在の中学入試と同じよう
な状況になると考えられるので，入学基準の再考（中学校実力考査・模擬試験）が必要では
ないかと思われる。

iii 進路関係

1. 大学等進学状況の概況

平成 30 年度卒業生（共学 6 期生）は 663 名（昨年度 676 名）。学年全体の現役合格率（大
学・短期大学・専門学校合格）は 90.7%（昨年 88.4%、一昨年 89.9%）で昨年より上
昇。

平成 30 年度卒業生の進学状況の概況は以下の 6 点に集約される。

- ①厳しい入試環境と言われながらも、本校全体の現役生徒の大学・専門学校合格率は 90%
を超えた。
- ②国公立大学の現役合格者が 3 年連続で増加。
- ③連携・指定校制推薦入試合格者の割合が、プレップ・一貫プレップ生の 39.3%になり、共
学化以来最高となった。
- ④難関・中堅私立大学受験者数が減少し、それに伴い合格者数も減少。
- ⑤短期大学受験者・合格者数が増加。
- ⑥難関公務員試験に合格し就職した生徒が増加。

*平成 30 年度も、昨年度に続いて文科省の進める「大学入学定員管理の厳格化」と「学
部新設不認可基準の厳格化」による大・中規模大学の合格者数の絞り込みの影響を大き
く受け、昨年度以上に「安全志向」が進み、進路決定の先取り傾向が進んだ影響が顕著
である。

平成 30 年度卒業生の最終進学等状況					
卒業生	4 年制大学	短期大学	専門学校	就職	その他*
663	517	17	43	8	78
割合	78.0%	2.6%	6.5%	1.2%	11.8%

*「就職者」内訳：大阪府警察・大阪市消防局・入国管理局・大阪府公務員・
自衛隊（海上・航空・曹候補生）・家事手伝い

*「その他」は進学準備・留学準備等

平成 29 年度卒業生の最終進学等状況					
卒業生	4 年制大学	短期大学	専門学校	就職	その他*
676	525	8	52	5	86
割合	77.7%	1.2%	7.7%	0.7%	12.7%

*「就職者」内訳：NTT西日本・陸上自衛隊・家業を継ぐ各1名、縁故就職2名

*「その他」は進学準備・留学準備等

2. 大学別合格者について

1) 国公立大学合格者 39 名（昨年度 33 名）*現役・過年度生を合わせた大学別実人数

①国立大 25 名（うち現役 23 名） ②公立大 14 名（うち現役 12 名）

【平成 28 年度～30 年度の国公立大学合格状況 比較】

*現役・過年度生を合わせた大学別合格者実人数

国公立大学合格者								
H30 年度			H29 年度			H28 年度		
順位	大学名	人数	順位	大学名	人数	順位	大学名	人数
1	和歌山大	9	1	和歌山大	8	1	和歌山大	5
2	大阪府立大	7	2	大阪市立大	5	2	大阪教育大	4
3	大阪教育大	2	3	大阪大	2		大阪市立大	4
	岡山県立大	2		奈良女子大	2	4	大阪府立大	3
5	大阪大	1		大阪府立大	2	5	大阪大	2
	九州大	1	6	筑波大	1	6	京都教育大	1
	神戸大	1		東京工業大	1		広島大	1
	奈良女子大	1		大阪教育大	1		岡山大	1
	奈良教育大	1		愛媛大	1		兵庫県立大	1
	信州大 等	1		京都府立大 等	1		京都工繊大 等	1
	合計実人数	39		合計実人数	33		合計実人数	33
	うち現役実人数	35		うち現役実人数	28		うち現役実人数	22
	国公立型クラス人数	147		国公立型クラス人数	140		国公立型クラス人数	133

2) 私立4年制大学 大学別合格者実人数 767名 (うち現役664名) 卒業生663名

* (昨年度786名 うち現役694名) 卒業生676名

【平成28年度から平成30年度の私立大学現役合格者 Best20 過年度比較】

私立大学現役合格者 *現役生のみでの大学別合格実人数で比較								
H30年度			H29年度			H28年度		
卒業生数 663名			卒業生数 676名			卒業生数 673名		
1	近畿大	64人	1	近畿大	68人	1	近畿大	95人
2	摂南大	57	2	摂南大	63	2	関西大	71
3	関西大	48	3	関西大	56	3	摂南大	54
4	龍谷大	40	4	龍谷大	54	4	龍谷大	44
5	大阪工業大	28	5	桃山学院大	30	5	大阪経済大	30
6	追手門学院大	22	6	大阪工業大	22	6	甲南大	25
7	桃山学院大	21	7	大阪経済大	21		桃山学院大	25
8	同志社大	19	8	畿央大	19	8	同志社大	22
9	大阪経済大	15	9	甲南大	17	9	大阪工大	19
	武庫川女子大	15	10	同志社大	16	10	大阪大谷大	17
11	甲南大	14	11	京都産業大	15		帝塚山大学	17
	帝塚山大	14		関西学院大	15	12	立命館大	16
13	関西外国語大	12	13	立命館大	14		追手門学院大	16
14	大阪大谷大	11		追手門学院大	14	14	甲南女子大	15
	四天王寺大	11	15	大阪電気通信大	13		武庫川女子大	15
	甲南女子大	11		関西外国語大	13	16	京都産業大	14
17	同志社女子大	10		武庫川女子大	13	17	関西学院大	13
	関西外国語短期大	10	18	同志社女子大	11		阪南大	13
19	和歌山大	9	19	大阪産業大	10	19	神戸女学院大	12
	立命館大	9		大阪樟蔭女子大	10		佛教大	12
	関西学院大 等	9		阪南大	10			
	合計実人数	664		合計実人数	694		合計実人数	775

【参考：近年の入試を取り巻く全体的状況】

《文科省による、2016年度以降の大規模大学の定員超過に対する補助金不交付措置の厳格化》

2015年度以前：入学定員8,000人以上の大学→超過1.2倍以上で×

2016年度：1.17倍以上で×

2017年度：1.14倍以上で×

2018年度：1.10倍以上で× 年々厳しくなり4年間で最も厳しくなった。2019年度も継続。

《学部新設不認可基準の厳格化》

例：現在のある学部の入学定員が 300 人の場合。2019 年度新設なら 2015 年度～2018 年度の 4 年間の入学定員平均充足率が 1.05 倍以上で不認可となる。法人全体の全学部が達成しないとだめという、非常に厳しい条件が付いている。2019 年度も継続。

◎この政策の影響で全国の私立大学が入学定員を厳しく管理したため、特に都市部の私立大学は 2018 年度から高い競争倍率となった。また、入試方式の多様化と「安全志向」の進行により、2019 年度はさらに併願受験が増えて競争が激化。大阪府の公立高校のトップ 10 と言われる学校も、多くの生徒が公募制推薦入試から私立大学の併願に参入し、公募制推薦・一般入試とも合格のボーダーラインを上げる結果となった。

◎この「安全志向」が国公立大学志望者層にも広がり、センター試験の平均点は上昇したものの、京都大学・大阪大学などの難関大学志望者が減り、中堅国公立大学や地方国公立大学に志願者が集まって難化した。

◎一方で、「第一志望」に合格した多くの成績上位生徒が、併願合格校の入学を次々と辞退したため、関西の多くの私立大学が「補欠合格者の繰り上げ合格」を実施、また次々と「追加合格」を発表したため、3 月末まで落ち着かない状況となった。

3) 私立短期大学合格者 28 名（うち現役 26 名）

*（昨年度 11 名 すべて現役）

私立短期大学合格者 *合格者であり進学者ではない		
H30 年度	H29 年度	H28 年度
28	11	16
うち現役 26	11	16

4) 専門学校合格者 50 名（うち現役 45）

*（昨年度 60 名 うち現役 56 名）

専門学校合格者 *合格者であり進学者ではない		
H30 年度	H29 年度	H28 年度
50	60	37
うち現役 45	56	35

3. 進学・勉学に関する進路指導部の事業報告

- 1) 通常の補講習とは別に、各学年の希望生徒対象に実施している「Uゼミ」が開講5年目となった。また、平成31年度4月からの新規事業として中学3年生対象の「高校進学準備講座」(英語・数学)を、本校卒業生による個別指導型の指導に再編する。
- 2) 「英語関連講座」は中1から高3までを対象として、土曜日放課後に通年で開講している。年々受講者を増やしており、平成30年度は準1級合格者を初めて輩出した。
- 3) 「オンライン英会話」は中1から高3までを対象として、平日放課後に通年で開講している。引き続き「㈱スクールTOMAS」と契約を結び、ネット回線を使って英会話および英検対策のマンツーマン授業を行っている。こちらも新入生を中心に受講者を増やした。
- 4) 本校では従来から「連携・指定校制推薦入試」に合格した高3生徒全員に「大学入学前特別プログラム」を独自で実施している。平成30年度は以下のプログラムを実施した。

①「連携大学の先生による入学前特別講義」:

連携協定を結んでいる甲南大学経済学部の教授2名による「大学での学びについての講義」と「レポートの書き方の実践演習と添削指導」を二日間の午前中で実施した。

②「エンパワーメントプログラム」:

これは、昨年度希望生徒対象に初めて導入した、㈱ISAの提供するプログラムで、グループワークと英語使用100%の授業を組み合わせた3日間のアクティブラーニング型演習である。受講費用は3日間×6時間で24,000円(生徒負担)。

生徒を4から5人のグループに分け、そこへ日本の難関大学に留学している外国人留学生1名がリーダーとして付き、様々なテーマについてグループ内で議論し、最後に一人ひとりの生徒が自分の将来について英語でプレゼンを行うというものである。

このプログラムは文科省の提示する「学力の3要素」の「知識・技能」と、それに基づいた「思考力・判断力・表現力」、および「主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度」を同時に育成するものであり、平成30年度はこれを高3の「連携・指定校制推薦入試」合格者全員が受講した。18か国から延べ24名の国際学生が来校してグループを指導した。

また、上宮太子高校からの希望生徒1名を受け入れた。

なお、国際学生のホームステイ受け入れ家庭を募集し、4家庭で受け入れを行った。

v 施設整備関係

新校舎建設についても大方の構想も出来上がりましたので、主に総合体育館プール機械室を中心に整備等の工事を実施しました。

また、新校舎への移動に伴い、理科教材（薬品及びホルマリン漬け標本＝令和元年度4月を予定）の不要分の法律に伴う処理を実施しました。

尚、新校舎においては、従来外注しておりました建物調査の一部を、管理・営繕係担当者が資格を保持しておりますので、調査に必要な一部機器の購入をし、調査を実施致しました。

1 ープール循環ポンプ及び周辺配管部材交換工事……………	2,592,000 円
2 ープールろ過ポンプ及び周辺配管部材交換工事……………	2,918,000 円
3 ープールろ過装置還り管中間フット弁交換工事……………	2,318,600 円
4 ープール槽のタイル補修工事……………	2,297,000 円
5 ープール機械室コウジェネ採熱2次ポンプ購入……………	2,127,656 円
6 ープール地下ピット給水配管改修工事……………	2,189,000 円
7 ー化学・生物準備室保管の不要試薬処分……………	2,492,534 円
8 ー各計測機器購入……………	2,513,000 円

vi 教務関係

①学校計画の策定

平成30年度学校計画を策定し、「建学の精神」「教育目標」「平成29年度を振り返って」「中期目標」「今年度目標」の項目に分け、上宮学園中学校・高等学校の学校方針を明確化した。この学校計画をもとに各学年・各分掌・各教科が自らの部門で必要とされる重点目標を策定して学校評価に結びつけ、さらに各教員は学校計画と学校評価に関連して個人目標シートに結びつけた。学校評価の充実には組織力の向上を、個人目標シートの充実には教育力の向上を目指している。

②教育プランの策定

平成30年度の教科の教育プランとコースの教育プランを策定し、各教科における教科指導上の目標達成と意思の疎通を図った。各コースにおいてはコースの特性を共通認識し、3年後および6年後の目標に向かっての指導を進める指標とした。

③シラバスの策定

平成30年度の教科およびコースの教育プランをもとに、教科およびコースのシラバスを策定した。シラバスは生徒・保護者および外部に対して公表するものであり、本校の教育内容はホームページにあげて公開と広報を行った。

④いじめ防止基本方針

いじめ対策委員会の設置は継続して行っている。

いじめ防止基本方針は、平成26年3月20日公布、4月1日施行であり、ホームページに記載している。

3.上宮太子高等学校

i 執行部関係

校長	寺澤 久弥	生徒指導部長	米田 文昭
教頭	佐々木 裕司	進路指導部長	漁野 篤史
教務部長	淵 昭嘉	入試対策部長	宮本 卓弥

ii 広報関係

① 学校説明会等行事

	実施日	参加組数	増減
オープンキャンパス	9月 8日(土)	158組	-93組
第1回入試説明会	10月 8日(月)	82組	+3組
第2回入試説明会	11月18日(日)	170組	+47組
UTフェスタ	11月17日(土)	105組	+48組
第3回入試説明会	12月 8日(土)	178組	-13組
直前対策入試説明会	12月16日(日)	223組	-17組
合計		916組	-25組

○総評

- ・説明会の内容においては、各教科からの説明も創意工夫がなされて充実したものといえる。また、受験生の反応もよかった。
- ・オープンキャンパスの参加組数が減少した。申し込み方法をWEBのみにしたことも影響したかもしれない。しかしながら、これもWEB出願やホームページ、アプリ等による広報活動の一環でもあるので、今後も案内に工夫を凝らしながら積極的にICT活用による広報を進めていきたい。
- ・生徒会主催のUTフェスタというイベントを昨年度から実施している。市場に認知されつつある行事ということもあり、参加組数は増加した。軽音楽部のライブやダンス部のパフォーマンス、生徒による学校説明等、内容もよかった。今後も生徒を前面に出した形での実施を心掛けたい。
- ・参加組数合計は昨年よりも減少したが、昨今の生徒人口減少を鑑みると、この程度でとどまったのはよかったと思える。2学期後半において昨年に比べて減少傾向であったが、入試の合否ラインを上げていることもあり、本校の受験を考えていた受験生が志望校を変更したことも理由の一つと考えられる。

○今後について

- ・イベントの回数や実施時期については概ね継承していく方向である。
- ・内容については、年々充実したものになっているが更なる工夫を凝らしたい。

- ・様々なイベント案内をICTツール（Web、アプリ）の活用により、参加組数を増やしていくべく工夫する。

② 塾対象説明会

	実施日	参加塾数	増減
塾対象説明会	7月12日・13日	134塾	-21塾

○総評

・昨年度は9月にスイスホテルで実施したが、今年度は通常通り7月に学校にて2日型で実施した。学校での実施ということもあり参加組数は減少した。しかしながら、学校での実施の場合は、上宮太子を御贔屓にしてくださる塾の参加が多くなる為、参加者の雰囲気は良いものであった。説明会の内容としても本校の売りである生徒の様子を紹介しやすいので、その分でも好評であった。説明会のアンケートにおいても生徒をお褒めいただく言葉が多かった。

- ・参加塾に対してアンケートを実施し、説明会の内容や学校に対するご意見を多数頂戴した。満足度は高く、今後も上宮太子を勧めたいとの意見が多かった。

○今後について

- ・塾の先生からの意見として「生徒や学校の様子を見たい」との声が多いので、生徒をうまく登場させる内容を今後も盛り込んでいきたい。
- ・実施時期については、学園の状況や受験市場の情勢を鑑み、臨機に対応していく。
- ・3年に1度の割合で参加塾の裾野を広げるためにホテルにて実施している。参加塾数を考えるとホテルでの実施が望ましい。今後も状況に応じて実施場所を検討していきたい。

③ 私学展

	実施日	参加塾数	増減
私学展	8月18日(土)・19日(日)	179組	+10組

○総評

- ・数字的には昨年よりも増加したのは良かった。ブースの位置取りも良かった。
- ・私学展はブースの見た目がかなり集客に影響するが、統一感のあるブースを作ったこともあり、ブースに座らなくとも受験生の目には上宮太子が印象に残ったのではないかとされる。また、他校からの視察もあった。

○今後について

- ・より目に留まりやすいブースを作ることが大切であるので、次年度はICTツールをさ

らに活用したいと考えている。

- ・資料コーナーを訪れる受験生が多いので、資料コーナーからブースに導く方法を検討する。
- ・私学展の参加者は多いが、その後の学校実施のイベントへのつながりは多くない。私学展参加者へのその後のアプローチを効果的に行い、学校へ足を運んでもらう仕組みをつくることも検討する。

iii 進路関係

【大学合格者数】

卒業者数が 50 名程減少したことに伴い、全体の合格者数は 100 名程減少した。

今年度：のべ 354 名（卒業者数 180 名） 昨年度：のべ 451 名（卒業者数 231 名）

○国公立大学

昨年度入試と比較して、現役生と過年度生を合わせた合格者数は増加した。

国公立大学合格者数

今年度：19 名（現役 18 名・過年度 1 名） 昨年度：14 名（現役 11 名・過年度 3 名）

当初目標は現役 22 名以上であった。目標には届かなかったが、概ね満足できる結果であったと言える。

○私立大学（関西 8 私大）

昨年度入試と比較して、関関同立の合格者数は 1 名増加し、産近甲龍の合格者数は 7 名減少した。その結果、関西 8 私大合わせた合格者数は 6 名減少した。

昨年度に引き続き、今春の卒業生も公募推薦、一般入試に挑戦する生徒が多かったが、収容定員厳格化の影響を受け、苦勞した生徒が多かった。

関西 8 私大合格者数

今年度：105 名（関西 16 名・関西学院 1 名・同志社 7 名・立命館 3 名・京産 4 名・近畿 38 名・甲南 7 名・龍谷 29 名）

昨年度：111 名（関西 14 名・関西学院 3 名・同志社 7 名・立命館 2 名・京産 5 名・近畿 46 名・甲南 7 名・龍谷 27 名）

○29 期生の進学状況（卒業者数 180 名）

4 年制（6 年制）大学進学者数…143 名 短期大学・短期大学部進学者数…6 名
専門学校進学者数…17 名 進路未決定…14 名

（内訳：総合進学文系 8 名、総合進学理系 2 名、特進文系 3 名、特進理系 1 名）

現役合格率 93.3%（昨年度 97.8%）、現役進学率 92.2%（昨年度 93.9%）

連携・指定校推薦入試枠 649 名分のうち、受験者数 24 名

（総合進学コース在籍者の 15.8%）

※なお、昨年度と比較して、連携・指定校推薦入試利用者（受験者）数は変わらず。

昨年度は関関同立・産近甲龍を含めた連携・指定校推薦入試枠 574 名分中、利用者（受験者）数は 24 名（総合進学コース在籍者の 12.1%）

総合進学コース在籍生徒のうち、2 名（実数）が関西大学に一般入試で合格。

2 名（実数）が京都産業大学に一般入試で合格。

6 名（実数）が近畿大学に公募制推薦・一般入試で合格。

1 名（実数）が甲南大学に公募制推薦入試で合格。

5 名（実数）が龍谷大学に公募制推薦・一般入試で合格。

（昨年度実績）総合進学コース在籍生徒のうち、

2 名（実数）が関西大学に一般入試で合格。

1 名（実数）が関西学院大学に一般入試で合格。

1 名（実数）が同志社大学に一般入試で合格。

3 名（実数）が京都産業大学に公募制推薦・一般入試で合格。

8 名（実数）が近畿大学に公募制推薦・一般入試で合格。

1 名（実数）が甲南大学に一般入試で合格。

4 名（実数）が龍谷大学に公募制推薦・一般入試で合格。

【進路指導方針】

入学当初より、進路指導LHRを通して、大学・学部・学科について調べさせ、できるだけ早い時期に目標設定を行うように指導している。総合進学コースの生徒にもセンター試験の受験、公募制推薦入試や一般入試を中心に大学進学をめざすように指導している。

生徒の将来とともに、上宮太子高等学校の将来を見据えた取り組みを今後も継続していきたい。

○次年度に取り組む内容（重点目標）

- ・安易な考えによるAO・連携・指定校推薦入試からの脱却
（総合進学全体の 20%未満）
- ・家庭学習の推進
- ・模試の事前・事後指導
- ・Classi を活用したメタ認知力の育成
- ・Find! アクティブラーナーを活用した授業改善

■上宮太子高等学校 平成31年度入試 大学合格者数一覧(卒業生数180名)

【4月5日現在】

国公立大学						
大学名	現役		過年度		合計	
	のべ	実数	のべ	実数	のべ	実数
国立大学						
大阪大	0	0	1	1	1	1
神戸大	1	1	0	0	1	1
北見工業大	1	1	0	0	1	1
三重大	2	2	0	0	2	2
島根大	1	1	0	0	1	1
山口大	1	1	0	0	1	1
徳島大	1	1	0	0	1	1
愛媛大	1	1	0	0	1	1
宮崎大	1	1	0	0	1	1
鹿児島大	1	1	0	0	1	1
国立大計	10	10	1	1	11	11
公立大学						
大阪府立大	2	2	0	0	2	2
滋賀県立大	1	1	0	0	1	1
公立鳥取環境大	1	1	0	0	1	1
福山市立大	1	1	0	0	1	1
下関市立大	1	1	0	0	1	1
宮崎公立大	2	2	0	0	2	2
公立大計	8	8	0	0	8	8
国公立大計	18	18	1	1	19	19

私立大学						
大学名	現役		過年度		合計	
	のべ	実数	のべ	実数	のべ	実数
関関同立						
関西大	14	10	2	2	16	12
関西学院大	1	1	0	0	1	1
同志社大	2	1	5	2	7	3
立命館大	1	1	2	2	3	3
関関同立計	18	13	9	6	27	19
産近甲龍						
京都産業大	4	3	0	0	4	3
近畿大	37	20	1	1	38	21
甲南大	7	5	0	0	7	5
龍谷大	23	13	6	4	29	17
産近甲龍計	71	41	7	5	78	46

私立短期大学						
短期大学名	現役		過年度		合計	
	のべ	実数	のべ	実数	のべ	実数
白鳳短期大	2	2	0	0	2	2
四條畷学園短期大	1	1	0	0	1	1
短期大学計	3	3	0	0	3	3

専門学校等						
専門学校等名	現役		過年度		合計	
	のべ	実数	のべ	実数	のべ	実数
田北看護専	1	1	0	0	1	1
大精協看護専	0	0	2	2	2	2
その他専門学校等	15	15	3	3	18	18
専門学校等計	16	16	5	5	21	21

私立大学						
大学名	現役		過年度		合計	
	のべ	実数	のべ	実数	のべ	実数
その他の私立大学						
明治大	0	0	1	1	1	1
大阪薬科大	2	1	0	0	2	1
神戸薬科大	2	1	0	0	2	1
京都女子大	2	2	0	0	2	2
神戸女学院大	1	1	0	0	1	1
武庫川女子大	1	1	2	1	3	2
関西外国語大	3	3	1	1	4	4
京都外国語大	4	2	1	1	5	3
大阪経済大	2	2	0	0	2	2
大阪工業大	9	4	0	0	9	4
佛教大	3	3	4	1	7	4
畿央大	4	3	1	1	5	4
摂南大	33	7	2	1	35	8
追手門学院大	4	3	0	0	4	3
桃山学院大	13	4	0	0	13	4
大阪大谷大	3	3	0	0	3	3
四天王寺大	10	3	0	0	10	3
大和大	3	2	0	0	3	2
大阪電気通信大	17	9	0	0	17	9
東海大	1	1	0	0	1	1
京都橘大	1	1	0	0	1	1
関西福祉科学大	14	6	3	1	17	7
甲南女子大	3	3	0	0	3	3
大阪樟蔭女子大	9	2	0	0	9	2
梅花女子大	1	1	0	0	1	1
帝塚山大	13	8	1	1	14	9
帝塚山学院大	6	2	0	0	6	2
大阪産業大	17	8	0	0	17	8
天理大	6	4	0	0	6	4
阪南大	22	7	0	0	22	7
太成学院大	4	4	0	0	4	4
大阪国際大	3	3	0	0	3	3
森ノ宮医療大	1	1	0	0	1	1
大阪河崎リハビリテーション大	1	1	0	0	1	1
大谷大	2	1	0	0	2	1
京都先端科学大	1	1	0	0	1	1
大阪経済法科大	1	1	0	0	1	1
大阪学院大	2	2	3	1	5	3
大阪物療大	1	1	0	0	1	1
吉備国際大	1	1	0	0	1	1
大阪芸術大	1	1	0	0	1	1
京都造形芸術大	1	1	0	0	1	1
大手前大	2	2	0	0	2	2
甲子園大	2	1	0	0	2	1
長浜バイオ大	1	1	0	0	1	1
関西国際大	2	2	0	0	2	2
羽衣国際大	2	1	0	0	2	1
平成国際大	1	1	0	0	1	1
奈良大	1	1	1	1	2	2
徳島文理大	1	1	0	0	1	1
岡山理科大	0	0	2	1	2	1
名古屋学院大	1	1	0	0	1	1
奈良学園大	2	2	0	0	2	2
四條畷学園大	1	1	0	0	1	1
その他の私立大学計	244	129	22	12	266	141
私立大学計	336	186	38	23	374	209

iv 入試関係

	コース	募集人員	専併	志願者数	合格者数	入学者数
1 次	特進	60名	専願	27名 (-2)	19名 (-4)	19名 (-4)
			併願	242名 (+13)	193名 (+18)	27名 (+5)
	総合進学	105名	専願	83名 (-19)	89名 廻し8名含む (-17)	89名 (-17)
			併願	119名 (-1)	156名 廻し41名 含む (-3)	25名 (±0)
1 ・ 5 次	特進	若干名	専願	2名 (+2)	1名 (±0)	1名 (+1)
	総合進学			7名 (+4)	7名 廻し1名含む (+4)	7名 (+4)
合計				480名 (-3)	457名 (-9)	168名 (-11)

※ () 内の数字は昨年度からの増減。 ※内部進学者 20 名を除く。

○総評

- ・志願者は3名の減少であったが、昨今の生徒人口減少（特に、南河内地区、中河内地区、奈良県南部という上宮太子の通学エリア）や入試の合否ラインを上げたことを考えると、この程度でとどまったのはよかったと思える。進学実績の向上や公立中学校における上宮太子の認知度が上がってきたことが理由である。
- ・特進コースの併願者が増加した。また、受験生のレベルが引き続き上昇していると考えられることができる。入試の平均点も上昇している。
- ・総合進学コースの専願者が減少した。昨年度はクラブ関係（野球）の受験生が40名近くいたが、今年度は20名程と半減したことが影響している。一方、学力の高いクラブ関係の受験生は多くなった。
- ・専願者数が大阪府の1.5次入試実施の規定内に収まったため実施することができ、9名の受験者・入学者を得ることができた。約半数が、上宮高校から廻ってきた受験生であった。
- ・併願戻り率は、特進14%、総合進学16%、全体で15%であり、少し上昇した。

○今後について

- ・ここ数年、受験生のレベルが上がってきたのは良い傾向である。今後も人数確保も視野に入れながらも、さらに合否ラインを上げて学校のレベルアップにつなげる方針である。
- ・公立中学校や塾に対しては今後も丁寧かつ積極的にアプローチをし、信頼関係を構築していく渉外活動を展開していく。
- ・受験生や保護者に対しては、今後一層ICTツールを活用しながら効果的に学校の魅力を伝えていく。
- ・1.5次の受験生に上宮高校から廻ってきた者が多かった。入試も含め、今後一層上宮高校との連携をとりながら募集活動を行っていききたい。
- ・上宮太子高校の進学実績は年々向上し、生徒は生き生きとした学校生活を送っている。これに満足することなく、さらなる学校の魅力を創出し、効果的に伝えていく工夫を行う。また、市場の動向をにらみながら、柔軟かつ積極的に広報活動を展開していく方針である。

v 施設等整備関係

- ・高校全普通教室ICT教育設備整備。(インタラクティブプロジェクター、ホワイトボード、ノートPC、書画カメラ)
- ・普通教室棟キュービクル(高圧受変電設備)入替。
- ・普通教室棟教職員系統LAN張替。
- ・普通教室棟トイレ改修工事。(3F男性用、BF男性用)
- ・野球場外部に屋外トイレの建設。
- ・卒業記念品として特別教室棟側バス転回場付近及び生徒昇降口外部にLED照明設備を設置。

vi 教務関係

①学校評価

各部署の実施計画と授業アンケートを中心に学校評価を行った。各部署については、4月末までに今年度の年間計画と取り組む内容を、10月末までに中間評価、3月末までに年度末評価を学校評価委員会に提出し、その都度校長より指導助言をいただく形で実施した。

授業アンケートについては、11月に実施し、その結果を各教員がリフレクションペーパーにまとめ、その後の授業に反映させるように行った。

前年度の総括の学校関係者評価委員会は7月に実施した。

②高大連携

○現状について

関西大学、近畿大学、龍谷大学、帝塚山学院大学、大阪樟蔭女子大学の5大学と高大連携協定を締結しており、それぞれの大学から特別推薦入試枠をいただいている。

また、近畿大学経済学部にも、数学のリメディアル教育担当教員を1名派遣している。

○今後について

いくつかの大学から高大連携協定に関する話を頂戴している。しかし、生徒の希望進路等を確認しつつ、本校としても長期間にわたり、責任のある関係を保つことができる大学に絞って今後の高大連携を考えていく。

③教職員研修会

昨今の私学を取り巻く厳しい環境のなかで、私立学校として、学校祖・法然上人の仏教精神に基づく『建学の精神』を掲げる上宮太子中学校・高等学校。そこで日々働く私たち教職員が、「意識の改革レベルの向上」・「私学人としての現状認識と共通理解の醸成」・「他校の情報収集と対策の研究」等を目的に、機会を求めて共に研鑽を積むことを重ねている。教職員一人ひとりが、そして、教職員総体として、「生徒・保護者のため」・「所属する職場組織のため」何が出来るか、どのように貢献できるかという視点で、基本的には各学期1回、年度に計3回、全教職員を対象に教職員研修を実施した。教職員の当事者意識の確立、研究心の錬磨、技量・モチベーション向上に繋げている。

<1学期・7月3日>

- ・テーマ「子どもを叱れますか？～手痛い失敗から学んだこと～」

～教員の生徒指導力・チームワークを高める～

講師：こんだ直人教育研究所代表

近田 直人氏

<2学期・12月6日>

- ・テーマ「パソコン・ケータイ・スマホのトラブル事例とその対処法」

～情報社会における子どもの守り方についての認識を高める～

講師：大阪市消費生活センター消費生活専門相談員

佐能八重美氏

<3学期・3月18日>

- ・テーマ「授業改革の方向性とアクティブラーニングの実践方法」

～生徒の能動的学修を推進する授業力を高める～

講師：上宮太子高等学校国語科

福田 和憲教諭

④特筆すべき行事

・【海外語学研修】

〈ニュージーランド語学研修〉3月末実施 対象学年 中2～高2 希望制

希望制語学力の向上および多文化理解を目的としたホームステイ型の研修。

研修期間は2週間で、生徒満足度97%と非常に高く、その結果、リピート率も高い。

(平成 30 年度 参加者 17 名)

〈イギリス語学研修 (ACEプログラム)〉7月中旬実施 対象学年 中3～高3 希望制
資格あり、国際感覚の習得、プレゼンテーション、スキル・チームワークやリーダーシップ
スキルの育成の向上を目的としたパブリック スクールでの寮滞在型の研修。参加資格
は英検 2 級 1 次試験合格以上。クリアした生徒は、学園から一部奨励金を受け、学園・学校
の代表としての誇りをもって、研修に参加する。
参加前には 10 時間以上のネイティブ講習会等を実施する。(平成 30 年度 参加者 1 名)

〈ニュージーランド ターム留学〉7月下旬～9月上旬 高校生 希望制
9 週間の海外滞在を通して、親元を離れ、現地校での授業はもちろん、世界をより深く知る
機会になると同時に、日本や自分自身のことについても改めて考えることが出来る素晴ら
しい機会となることを目的としている。
令和元年 7 月 20 日 (土) ～9 月 22 日 (日) 実施予定。
英語試験および英語での面接審査にて派遣を認められた高 2 生 2 名が現在、研修を続けてい
る。

・【語学研修】

〈イングリッシュワークショップ〉

特別授業期間を利用し、外部講師を活用して高校 1・2 年生の各々の学年で全員を対象
に英会話講習会を実施している。少人数のグループにネイティブの講師 1 名が付く。
4 コマ (1 コマ 45 分) を講師がローテーションすることにより、各コマの雰囲気が変わり
充実した講習会となっている。

・【修学旅行】

平成 30 年 12 月 16 日 (日) から 12 月 21 日 (金) の 4 泊 6 日で、高 2 生 210 名が、オー
ストラリア ケアンズで、ファームステイでの国際交流を中心とした修学旅行を実施した。
また、中 3 生が 9 月 27 日 (木) から 10 月 1 日 (月) 4 泊 6 日で、24 名が、異文化交流の歴
史をもつ五島列島の小値賀島での民泊体験を実施した。台風の影響により、島から移動する
ことができず、ハウステンボスでの活動を実施することができなかった。

・【聖徳書道展】

平成 30 年度で第 11 回の実施となる上宮太子主催の文化活動である。伝統文化の発展
と、聖徳太子ゆかりの地にある学校として、“以和為貴”の精神を理解・継承し、「和」の
心を広め、育成することを目的として開催している。例年、総本山知恩院、太子町・太子
町教育委員会、毎日新聞社の後援をいただいて、平成 30 年度は、小中高生及び一般の
方々から約 5,000 点の応募作品を得た。10 月 7 日 (日)・8 日 (月・祝) 両日に、上宮太
子中学校・高等学校を会場として、入賞・入選作品を掲示、他の作品も展示し、第 2 日に

は入賞作品の表彰式も実施した。毎年、家族連れ等多くの来校者を迎え、結果として、学園・学校を広く知らしめる契機としても意義ある、上宮太子の一大行事となっている。

vii 課外活動関係

① 課外活動のあり方について

運動部：13、文化部：11、同好会：1（平成31年3月末現在）

中高で約7割の生徒がクラブに所属し、それぞれのクラブの特色に応じて活動している。各クラブにおいて目標を達成する上の過程を大切にし、礼儀や挨拶等を含めた人間教育に重点を置いた指導をめざし、学校全体の活性化もねらいとしている。

② 新規クラブ発足等の動きについて

平成30年12月 コーラス同好会 新規発足

平成31年 2月 女子サッカー同好会 部員不足により廃止

（平成31年 4月より、生物部・地歴部が統合し、「総合探究部」に名称変更）

③ 部活動の主な成績

書道部

第53回 高野山競書大会

官庁賞 平川 香恋（高2）、船津 美海（高2）、平川 汐南（高1）

三嶋 美月（中3）、三嶋 柚心（中2）

第27回 国際高校生選抜書展（書の甲子園）

入選 平川 香恋（高2）、船津 美海（高2）、平川 汐南（高1）

第57回 伊勢神宮奉納書道展

伊勢市長賞 平川 香恋（高2）、平川 汐南（高1）

伊勢神宮崇敬会賞 三嶋 美月（中3）

軽音楽部

第11回 全国高等学校軽音フェスティバル 小編成部門 出場

J:COM Presents 高校軽音フェスティバル2018 AUTUMN FESTIVAL 本選出場

ベストボーカリスト賞 福井 彩花（高2）

第39回 大阪府高等学校芸術文化祭（軽音楽部門） 本選出場

硬式野球部

第100回 全国高等学校野球選手権記念 南大阪大会 3位

平成30年度 大阪私立学校総合体育大会（硬式野球の部） ベスト8

ラグビー部

第98回 全国高等学校ラグビーフットボール大会 大阪府予選 第3地区 ベスト8

美術部

第67回 大阪私学美術展 立体部門 優秀賞 西原 雅人（高1）

男子硬式テニス部

3 学区テニストーナメント 団体戦 本選出場 東田・中島・阪口・吉井（高2）
女子硬式テニス部
阪南地区テニス大会 シングルス 本選出場 乾 ほの香（高1）
吹奏楽部
第29回 管弦打楽器ソロコンテスト 南地区大会 金賞 伊東 美咲（高1）

viii 防災対策関係

大規模災害が発生した場合は、帰宅困難者によるさらなる混乱を防ぐため、生徒をすぐには帰宅させず、学校内で待機させるという考え方が主流になっている。そのため、学校側は、生徒が最低2日間、学校内で寝泊まりできる備えが必要となる。

また、学校の復旧だけでなく、地域の帰宅困難者支援、一時滞在者の受け入れ、避難所への物資の提供等、学校にできる被災者支援を行うことが、本校の信用を高め、地域貢献に繋がる。

（備蓄品内容 一人分）

朝食パン2日分 昼・夜 アルファ米2日分 飲料水500ml6本
ミルクビスケット・クラッカー 保存用水20900本 レスキューシート
（救助・救命KIT） 普通教室棟 1セット 特別教室棟 1セット

ix その他

- ①生徒会活動の一環として、上宮祭における献血活動に力を入れている。日本赤十字社より講師を招き、全生徒に対して献血に関する事前学習を行い、上宮祭当日までの呼びかけや、研究発表を通してたくさんの生徒、来校者に協力していただいている。
- ②生徒の主体的活動の一環として、ボランティアへの積極的参加の呼びかけを行っている。大阪府青少年赤十字主催のボランティア活動やリーダーシップ・スタディー・センター（防災キャンプ）に参加した。また、太子ロータリークラブとの連携による「インターアクトクラブ」の発足に向けて準備を整えてきた。
- ③今年度より、生徒を主体とした委員会活動の推進を行っている。主な活動実績として、保健委員会が上宮祭において、「睡眠と健康」をテーマに研究発表・啓発活動を行った。また、風紀委員会では「あいさつ運動」を毎朝実施し、放送委員会は昼食休憩時に放送番組の制作を行った。他の委員会にも積極的な活動がみられる。

4. 上宮学園中学校

i 学校統合

- ① 平成 30 年度は、上宮中学校と上宮太子中学校の統合により、上宮学園中学校が発足した年である。学校組織としても、上宮学園中学校・上宮高等学校の校長のもとに副校長を置き、高校と中学校にそれぞれ教頭を配置することになった。
- ② 平成 29 年度にまとめられた「上宮学園中学校」の学校概要に基づき、学校内外の教育活動を予定通り実施した。

ii 広報関係

① 塾本部への説明

「上宮学園中学校」発足の広報と、新しい入試形態の説明のため、副校長と入試対策部長とで各塾の本部を訪問した。

② 校内における入試説明会、体験学習会を取りやめ、学校見学会を 3 回行った。

またプレテストの回数を 2 回に増やした。

6 月 16 日（土）午前 学校見学会

9 月 1 日（土）午前 学校見学会 午後 第 1 回中学校入試説明会（14：00 講堂）

10 月 6 日（土）第 2 回中学校入試説明会（10：00 講堂）

11 月 3 日（土）第 1 回プレテスト 一般学力・適性検査型

11 月 10 日（土）第 2 回プレテスト 一般学力・適性検査型

11 月 24 日（土）午前 学校見学会 午後 第 3 回中学校入試説明会（14：00 講堂）

12 月 15 日（土）上宮学園中学校・上宮高等学校学校見学会（終日 カフェテリア）

③ 塾対象説明会

9 月 20 日（木）2020 年度教育改革に当たっての上宮学園中学校と上宮高等学校の学校改革、および上宮学園中学校の教育内容と入試内容について説明を行った。

④ 大阪私立中学校フェア

4 月 30 日（日）大阪私立中学校高等学校連合会主催の大阪私立中学校フェア（大阪国際会議場）に参加し、60 組の児童・保護者と対応した。（H29 年度は 63 組）

⑤ 私学展

高校と内容は同じ

iii 入試関係

上宮学園中学校の入試は従来の一般学力型（4 教科・3 教科・2 教科）に加え、平成 31 年度は適性検査型（2 教科 国語型・算数型の合計）および自己アピール型入試を行った。

① 入試日程

1 月 19 日（土）午前 1 次 一般学力型

午前 1 次 適性検査型

午前 1 次 自己アピール型（受験者無し）

1 月 20 日（日）午前 2 次 一般学力型

② 入試結果

昨年度の1次一般入試出願者87名に対し、今年度は109名で前年度比125%、入学者も昨年度1次一般入試入学者73名に対し86名であり、前年度比117%となった。1次適性型出願者は昨年度48名、入学者4名に対し、本年度は16名、入学者0名となった。また、本年度初めて実施した1次自己アピール型入試は、事前のエントリー会では2名のエントリーがあったものの受験に至っていない。しかし、最終的な入学者は101名となり、昨年より9名増となった。また、女子入学者については20名となり、昨年度より6名増加した。平成30年度は男子クラスを作らず、3クラスとも共学クラスである。

平成30年度は久しぶりに100名を超える入学生を迎え入れたものの、女子生徒は20%程度であり、女子生徒獲得の目標を30名とするのは次年度も同様である。また、適性型入試と自己アピール型入試の改良が、今後の重要なポイントとなる。

iv 教務関係

(1) 学校評価の総括から () 内は自己評価

- ① 日々の行事運営 (B)
- ② 教務係との業務の連携、運営 (B)
- ③ 教員間の情報の共有・連携 (B)
- ④ 中高教務の連携 (C)
- ⑤ 会議や連絡会について (B)
- ⑥ 教務会の円滑な進行について (A)
- ⑦ 上宮学園中学校開設についての取り組み (B)
- ⑧ 六カ年を見据えた教育の充実 (C)
- ⑨ 校外学習及び総合学習の充実と積極的な取り組み (B)
- ⑩ 上宮学園中学入試の実施と諸問題の検討 (A)
- ⑪ 保護者会との協力 (B)
- ⑫ 部活動の充実に繋がる取り組み (B)

(総括)

平成30年度の中学行事には、太子における合同校外学習や、合同スキー実習などがあり、何とか無事に終えることができた。今後は上宮太子中学校・高等学校との打ち合わせを行いながら、生徒の進学面でのサポートについても検討する必要がある。

(2) 勉強合宿

- ① 例年、中1は5月に勉強合宿(1泊2日)を行っていたが、平成30年度は、4月初めの祖山参拝に合わせ、司馬遼太郎記念館訪問も含めて2泊3日のオリエンテーション合宿を実施した。
- ② 中1、中2の特進コースが行う夏期勉強合宿(2泊3日)は9年目となった。自学自習が早くから定着することと、将来の進学に自覚を持たせる目的がある。

③ 中3勉強合宿(2泊3日)は、2月に実施した。上宮高校入試問題も合宿3日目に実施したが、あまりよい結果を出せなかった。その動機付けをどのようにするのが今後の課題である。

(3) 中3修学旅行

平成30年度より、実施方面をシンガポールに変え、ホームステイおよび現地の若者との交流を主とするプログラムを実施した。また、マレーシアにも足を延ばして異文化交流を行った。事後のアンケートでは概ね好評であり、今後も継続予定である。

(4) スキー実習

中1、中2の全員が例年通り、志賀高原スキー場にて3泊4日で実施したが、平成30年度は上宮太子中学校2年生と合同で行う初めての試みとなった。途中から離団する生徒もおらず、無事に終えることができた。例年通り雪質もよく、宿舎でインストラクターの話を聞けるなど、事後のアンケート結果においても生徒の満足度は高かった。

(5) 中3生対象のオーストラリア語学研修

3月末から4月初旬にかけての12日間。ケアンズにおけるホームステイを中心に、午前中は語学学校、午後はアクティビティからなる研修で、参加者からは好評を得ている。

(6) 中学1年生の太子での合同校外学習。

学園初めての取り組みであった。本校1年生と上宮太子中学校2年生とで太子町の史跡見学を行った。天候に恵まれ、両校生徒にとって有意義な体験となった。

(7) 上記以外の行事

① 中1：5月に冒険教育(神戸鈴蘭台スカイアドベンチャー、日帰り)を実施

② 中2：8月に和歌山県日置川町における民泊(2泊3日)を実施

12月に思春期教室(バルナバ病院で実施)

③ 各学年主導の校外学習

1年：司馬遼太郎記念館、近大英語村

2年：上町台地において班別自主研修、近大英語村

3年：修学旅行事前学習として、ECC英語学院でグローバル体験を行う。

v 課外活動関係

◎剣道部 近畿大会 個人 1回戦

◎ソフトテニス部 全国大会 団体 準優勝体ベスト8 個人 第3位

近畿インドア大会 団体 ベスト8位 個人 ベスト16位

◎卓球部 近畿大会(8月) 個人 ベスト8

全国大会 個人 出場 全日本カデット 個人 出場

近畿大会(3月 真嶋杯) 団体優勝

◎水泳部 ジュニアオリンピック 個人出場 田積帆乃果

ジュニアパンパシフィック 日本代表として出場 田積帆乃果

5. 上宮太子中学校

i 教務関係

① 学校評価

上宮太子高等学校と同内容

② ガンバリシステムの導入

- ・学力のみならず、自立した「生きる力」を持った生徒の育成
- ・達成によって得られる自己肯定感の育成
- ・生徒一人ひとりの良さや可能性を伸長
- ・生徒一人ひとりの学習意欲の向上
- ・一人ひとりの生徒が自らの良さに気づき、自主的に学ぼうとする態度を身につける。

【ガンバリシステムの評価項目】

大項目	学 業		自己啓発		生活状況			資格		課外活動			
	模擬試験	ガンバリスト	図書館利用状況	自己啓発	勤惰状況	生活態度	家事・自立	漢字検定	英語検定	クラブ活動	生徒会活動	ボランティア	コンクール
小項目													

① 教職員研修会

上宮太子高等学校と同内容

② 特筆すべき行事

海外語学研修・聖徳書道展については上宮太子高等学校と同内容

その他

早朝テスト 朝礼時に実施することにより、授業への姿勢を整えさせ、学習習慣の定着を図る。

外部模試 全国的なレベルでの成績の比較。

特別考査 日頃の学習の成果を見極め、校内での実力を確認する。

漢字検定試験 中学卒業までに2級合格が目標。

英語検定試験 中学卒業までに3級合格が目標。

英検講習 学年卒を越えた級別講習を、通常の補習・講習に加えて、検定日前に集中実施。

夏期英語強化講習 特別授業期間を利用し、外部講師を活用して中学2年生全員を対象に英会話に特化した集中講座を4日間実施した。3日目には、吹田市にあるオオサカイングリッシュビレッジにて2日間の練習の成果を確認させた。

授業内小テスト・個別指導・添削指導等、教科の特性を加味した指導を実施。
職員室前に質問コーナーを設け、生徒がいつでも質問しやすい環境づくりを設定。

学校行事

普段の教室での“知性を磨く”学習とは違った形で学び、違った環境の中で「感激・感動」を味わって、“感性を磨く”学習としての学校行事。普段、「吸収」した知識を、いかにうまく「発揮」していくかに繋げたい。“交流”“体験”“手づくり”を重視した修学旅行・文化祭（本校では上宮祭）・体育大会の他、独自の行事も実施。

御忌式	校祖法然上人のご命日に当たる毎月25日の第1限に学園長より講話。
校祖誕生会	校祖法然上人のお誕生の日に式典と講話。
正当御忌式	校祖法然上人の祥月命日に式典と講話。
修学旅行	(九州方面) 長崎県五島列島の小値賀島での民泊体験他。
スキー実習	中2学年が信州志賀高原スキー場にて上宮学園中学校1・2学年と合同実施。スキー技術の習得・向上と共に、規則正しい集団生活を通して、お互いに助け合い、友情を深める。また、集合時間や健康などを自分自身で管理することにより、自主性と責任感の育成を図る。
球技大会	生徒会起案で実施、生徒の自主性を養う。
体育大会	5学年縦割りの色別対抗で実施。学年枠を越えて先輩・後輩の関係性の確立を図る。
上宮祭 芸術鑑賞	研究発表等、多彩なクラス参加、または、文化部の催し物を実施。 音楽、古典芸能、ミュージカル等「ホンモノ」の芸術に触れ、感性を磨くことを目的とする。平成30年度は、大阪シオンウインドオーケストラの吹奏楽を鑑賞。
校外学習	近つ飛鳥風土記の丘・博物館見学を2学年合同で実施。

ii 課外活動関係

上宮太子高等学校と同内容

iii その他

特記事項なし